

3

学生生活の悩み・不安について

健康状態

健康状態は勉学への意欲や満足度を左右する！？

8割の学生は健康、しかし「あまり健康ではない」12.8%、「健康ではない」3.1%

健康状態と授業への興味、授業の満足度には関係あり

学生生活での不安・悩み

最大の不安「進路・就職」は3年生の時にピークに！

学年が上がるにつれ、「勉強」への不安は減少し、「進路・就職」の不安が増える

悩みの相談相手

悩み多き学生時代、頼りになるのは「友人」、「家族」、「恋人」！

悩みを相談しようとする女性 一人で解決しようとする男性
健康状態が良好ではない学生は一人で抱え込みやすい傾向あり

セクシュアル・ハラスメント

セクハラ被害は、やはり女性に顕著！

受けた経験「ある」、「ややある」合計：男性4.6%、女性15.3%

学年が上がるにつれ被害者も増加

希望するセクシュアル・ハラスメント防止策

被害者は、事後対処より予防措置を望む

受けた経験「ある」、「ややある」学生は教職員、学生への指導を望む
学内専門機関の認知度は低い！

学生マナー

見られています！ あなたの喫煙マナー

喫煙マナーの悪さの指摘急上昇 2002年度：20.5%
2003年度：27.6%

授業に興味のない学生ほど授業のマナーへの意識が低い

E-mail、インターネットトラブル

便利なE-mail、インターネットも
トラブルがつきもの？

トラブルの経験あり約7割

トラブル経験者は、何らかの方法で自衛

Q 不安や悩みは誰に相談しますか？（ベスト5）

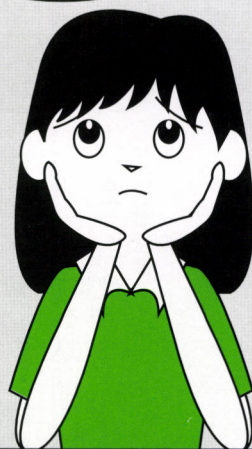
1位 友人 40.5%

2位 家族 23.0%

3位 恋人 12.9%

4位 相談したくない 7.1%

5位 先輩 6.3%





健康状態は勉学への意欲や満足度を左右する!?

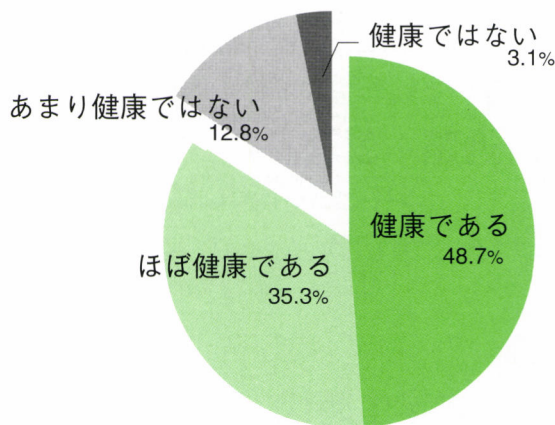
POINT

8割の学生は健康、しかし「あまり健康ではない」**12.8%**、「健康ではない」**3.1%**

健康状態と授業への興味、授業の満足度には相関関係あり

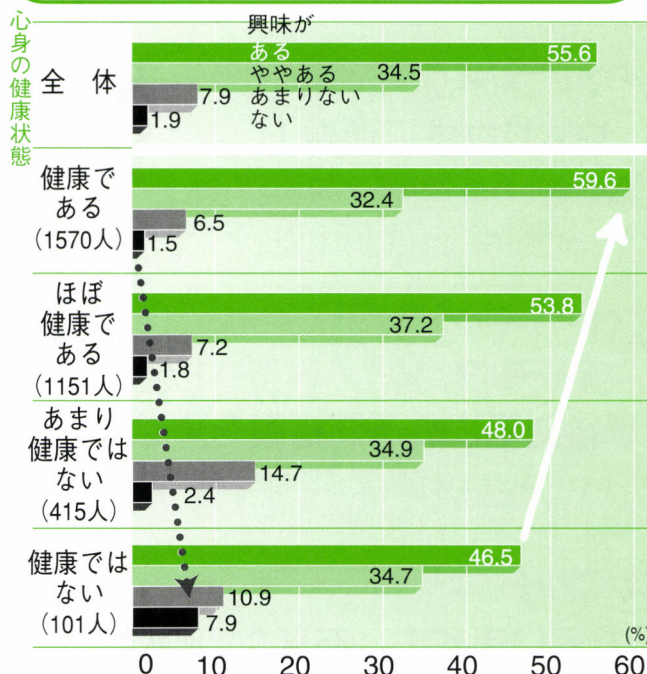
心身の健康状態について「勉学に支障がない程度」かどうかという判断基準で質問したところ、80%以上の学生は健康であると答えましたが、およそ6人に1人の学生が健康な状態ではないと回答しました。このことを看過することはできません。それは健康であるということが勉学を進めるための必要条件であるからということばかりでなく、勉学への取り組み意識、満足度にも影響していると考えられるからです。

あなたは今、心身ともに健康な状態（勉学に支障がない程度）だと思いますか？

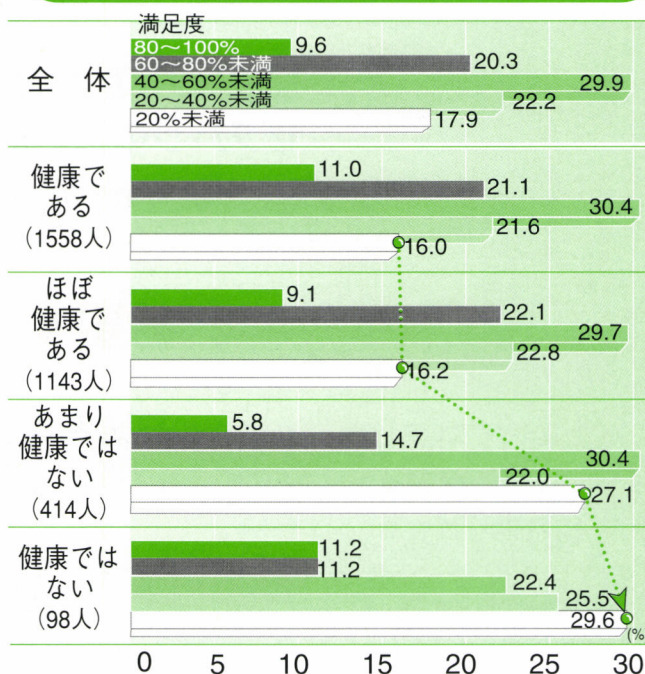


自宅学生と自宅外学生の差異は特にありませんでした

大学の授業に興味がありますか？/あなたは今、心身ともに健康な状態（勉学に支障がない程度）だと思いますか？

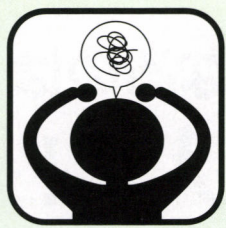


今あなたが取っている授業の中で満足するものはどれくらいありますか？/あなたは今、心身ともに健康な状態（勉学に支障がない程度）だと思いますか？



「健康状態」ごとに「大学の授業への興味」を分析してみると、「健康ではない」学生と、「健康である」学生では、授業の興味に大きな差があります。また同様に「健康状態」ごとに「授業の満足度」を見てみると、「健康である」学生の方が満足する授業の割合が高い傾向があります。

このように健康状態が学生の勉学に対する意欲や満足度を左右している可能性があります。あるいは逆の因果関係として、大学の授業と学生のミスマッチが学生の心身の健康を蝕んでいるのかもしれない。



最大の不安「進路・就職」は 3年生の時にピークに！

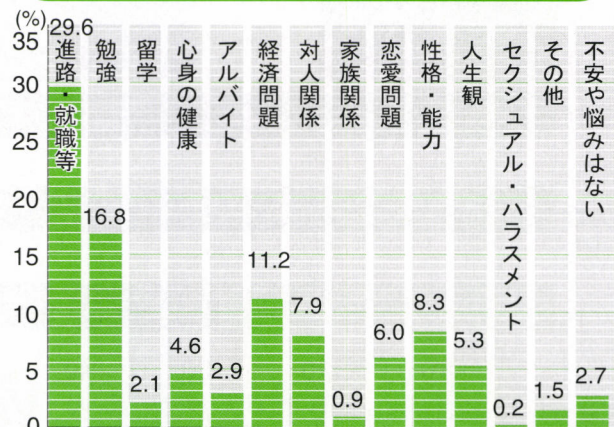
POINT

学年が上がるにつれ、「勉強」への不安は減少し、「進路・就職」の不安が増える

学生生活での不安や悩みで多いのは、「進路・就職等」、「勉強」、「経済問題」です。

学年別で見ると、1年生はまだ大学での勉強のレベルやペースに慣れていないということもあるせいか「勉強」(24.1%)がトップです。学年が上がるにつれて「進路・就職等」と「勉強」に対する不安・悩みの数字が逆転しますが、3年と4年の「進路・就職等」の数値はほとんど変わりません。インターンシップを含む就職に関する活動が3年生から始まる最近の情勢を反映している結果といえるでしょう。性別で比べると、女性の方が「進路・就職等」の不安・悩みが高く、雇用機会均等の建前に反して、実際には女性の方が就職難であるという現実を表しているのでしょうか。

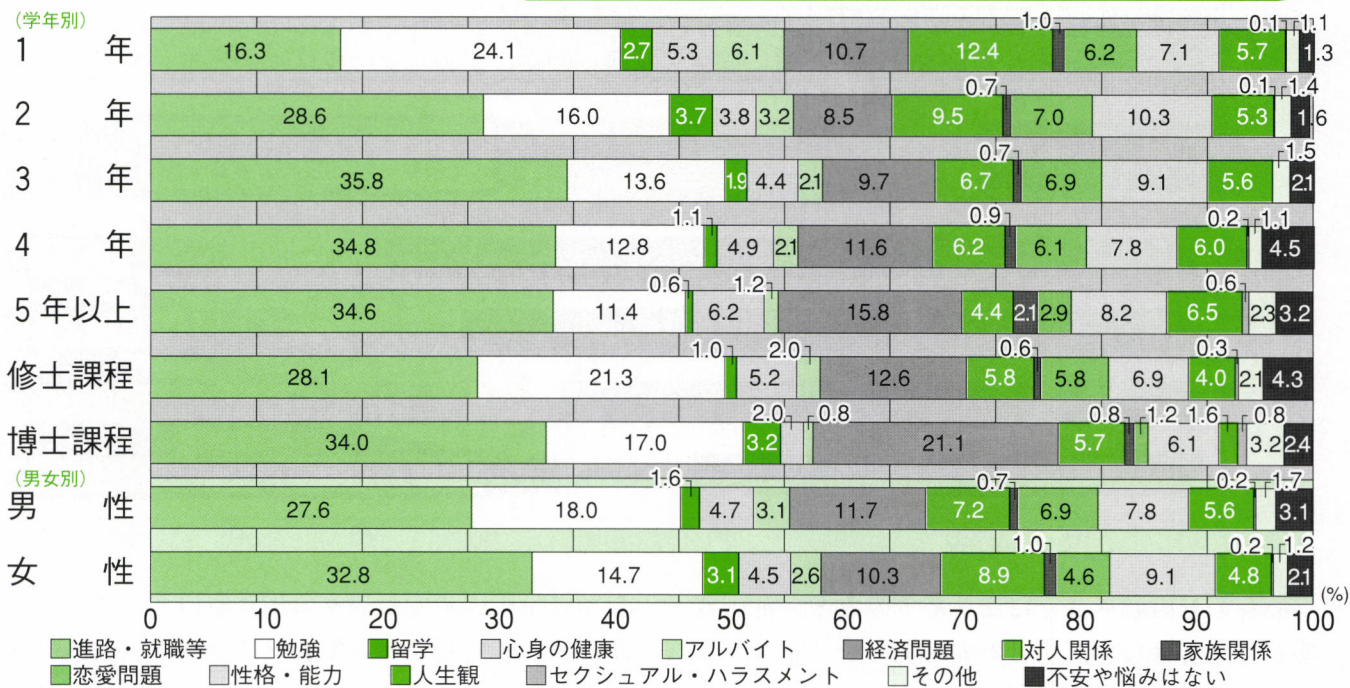
学生生活での不安や悩みを教えてください
[複数選択可]



不安や悩みの種類の順位は昨年度の調査結果とほとんど変わりません

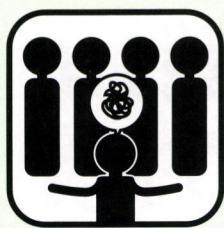
学生生活での不安や悩みを教えてください

(学年別、男女別) [複数回答可]



「心身の健康状態」と不安・悩みの種類とのクロス集計では、「健康でない」学生は、「心身の健康」(20.3%)、「対人関係」(11.8%)、「性格・能力」(10.4%)、「人生観」(9.9%)を

多く挙げ、逆に「進路・就職等」(17.5%)、「勉強」(10.8%)は低くなっています。ここでも「心身の健康状態」が心に関する問題であるということが浮き彫りにされています。



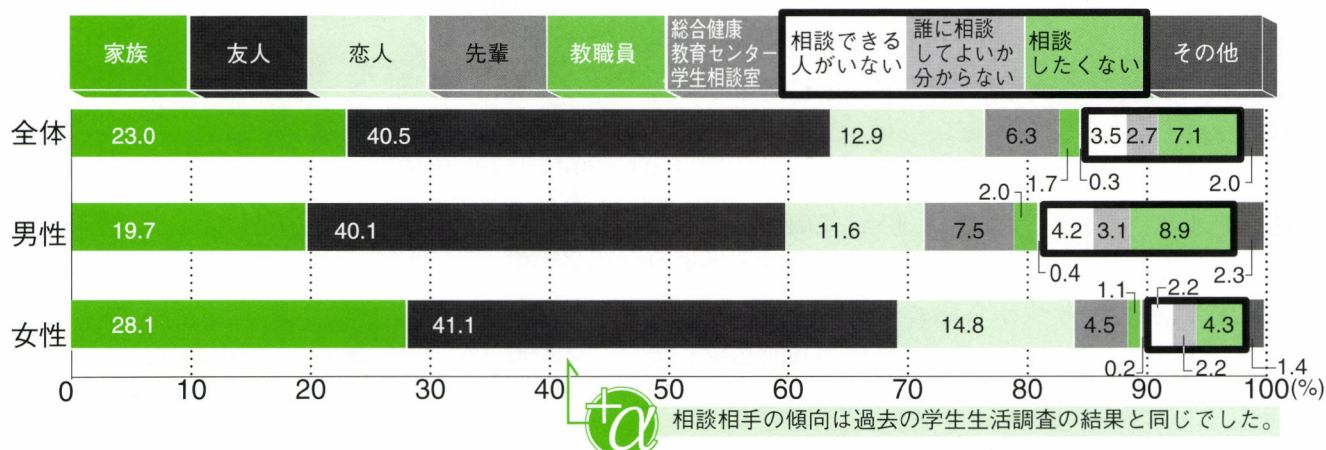
悩み多き学生時代、頼りになるのは「友人」、「家族」、「恋人」！

POINT

悩みを相談しようとする**女性** 1人で解決しようとする**男性**

健康状態が良好ではない学生は1人で抱え込みやすい傾向あり

不安や悩みは誰に相談しますか？（男女別）〔複数選択可〕

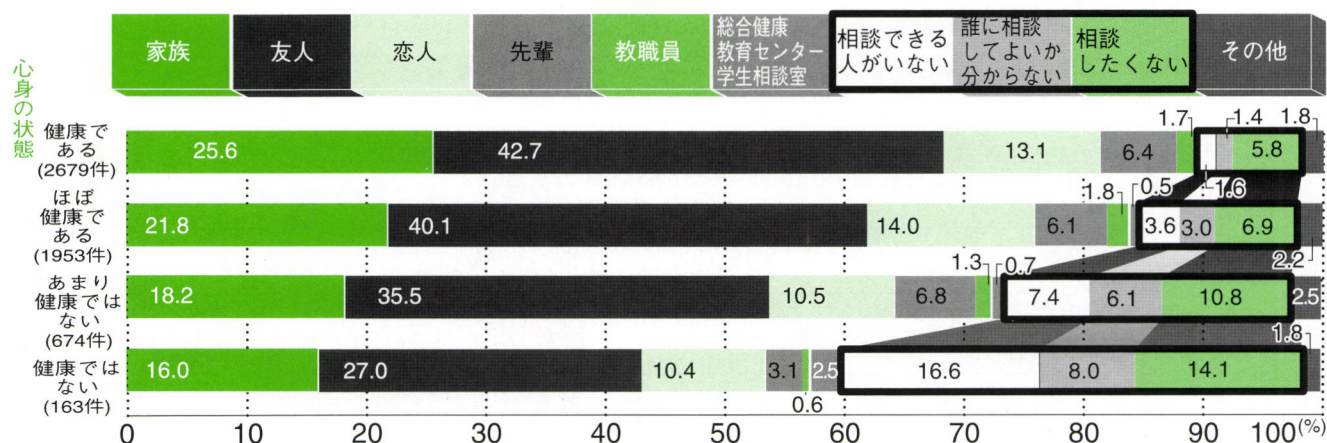


不安や悩みを誰に相談するかについては、「友人」(40.5%)、「家族」(23.0%)、「恋人」(12.9%)の順となっています。男女で比較すると女性の方が

「家族」や「恋人」に相談する割合が多く、男性では「相談したくない」が多くなっています。

不安や悩みは誰に相談しますか？〔複数選択可〕

／あなたは今、心身ともに健康な状態（勉学に支障がない程度）だと思いますか？



心身の健康状態ごとにまとめてみると、健康状態が良好ではない学生は不安や悩みを「相談できる人がいない」、「誰に相談してよいか分からない」、「相談したくない」が、顕著に高くなっています。不安や悩みを誰にも相談できずに一人で問題を抱えてしまっている状況がうかがえます。大

学では学生の不安や悩みの相談窓口として教職員がおり、また総合健康教育センター学生相談室を設置しているわけですが、これらの利用状況は「健康ではない」学生であっても、「教職員」(0.6%)、「総合健康教育センター学生相談室」(2.5%)と低くなっています。



セクハラ被害は、 やはり女性に顕著！

POINT

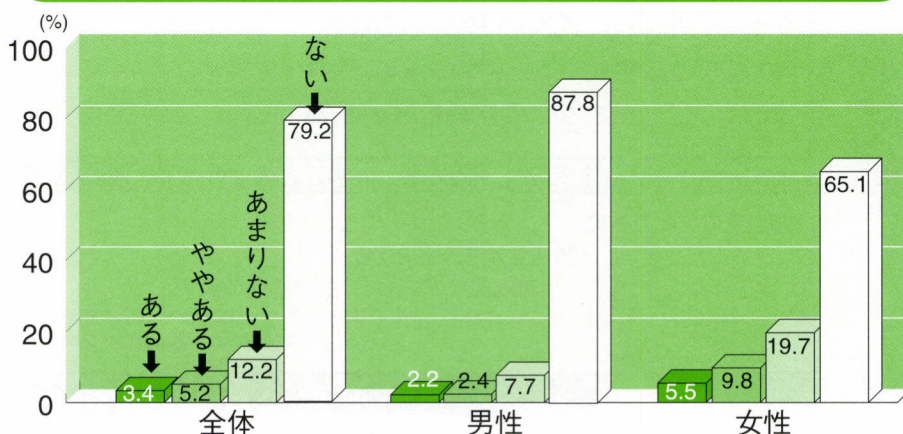
受けた経験「ある」、「ややある」合計：男性**4.6%**、女性**15.3%**

学年が上がるにつれ被害者も増加

セクシュアル・ハラスメントを受けているかについては、「ある」(3.4%)、「ややある」(5.2%)と約12人に1人が被害を受けていると感じています。この数字が大きい小さいかは見解の分かれるところかもしれませんが、すべての学生が安心して学ぶことができるにはまだ道のりは遠いと言えるでしょう。この問題は、両性ともに被害を受ける立場に

ありますが、性別では「ある」、「ややある」を合わせて、男性では4.6%に対して女性は15.3%と高い数値となっており、少なくない数の女性がセクシュアル・ハラスメントで学生生活を阻害されていることが分かります。学年別に見てみると、学部では学年が上がるにつれてセクシュアル・ハラスメントを受けたことが「ある」学生が増加しています。また、大学院では修士課程で4.4%、博士

大学生活でセクシュアル・ハラスメントを受けたと感じた(感じている)ことがありますか？(男女別)

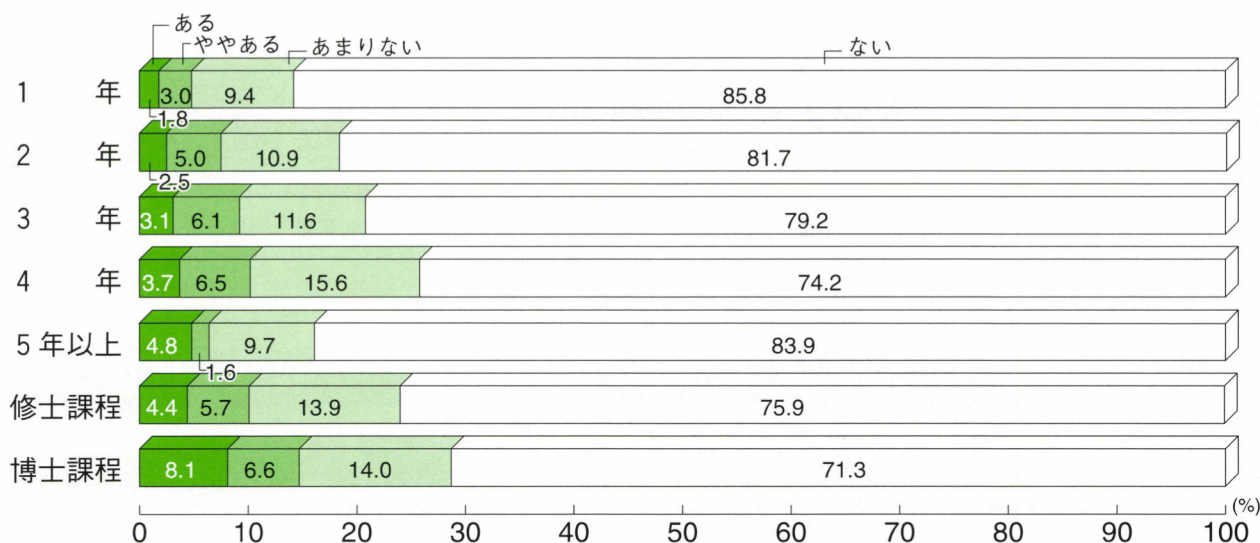


課程で8.1%と大変高い数字となっています。

はみだし情報

サークルの参加状況によつての変化を見ると、サークルに「参加したことがない」学生が「ある」、「ややある」合わせて6.8%なのに対して、「以前参加していた」学生は10.3%、「参加している」学生は8.3%と若干ですが高くなっていました。サークル活動にはセクシュアル・ハラスメントが生じやすい土壌があるのかもしれません。

大学生活でセクシュアル・ハラスメントを受けたと感じた(感じている)ことがありますか？(学年別)





被害者は、事後対処より 予防措置を望む

POINT

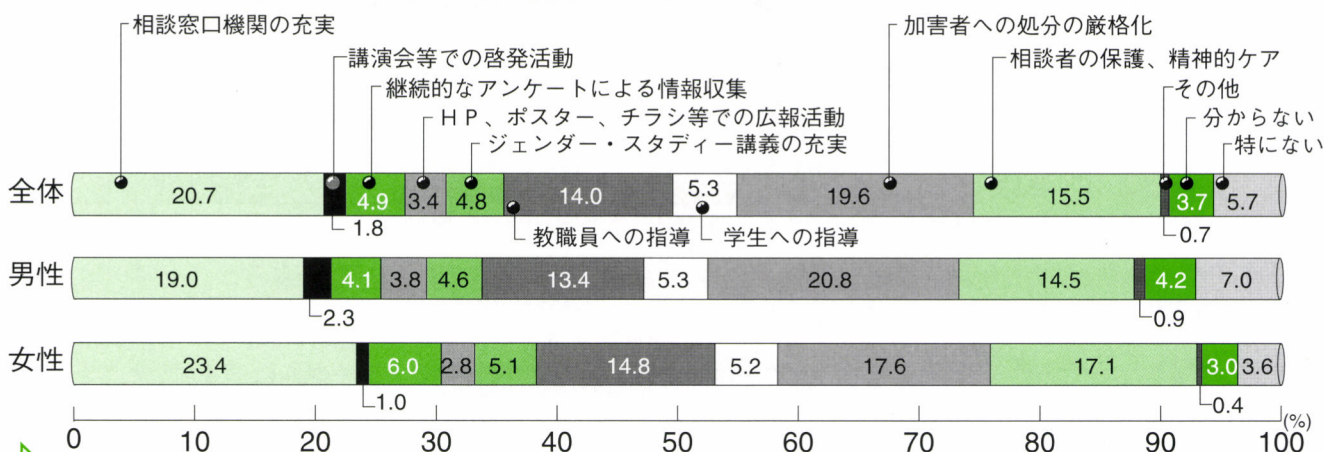
受けた経験「ある」、「ややある」学生は教職員、学生への指導を望む

学内専門機関の認知度は低い！

学生はセクシュアル・ハラスメントに対して大学がどのような取り組みをすべきだと考えているのでしょうか。「相談窓口機関の充実」(20.7%)、「加害者への処分の厳格化」(19.6%)、「相談者の保護、精神的ケア」(15.5%)、「教職員への指導」

(14.0%)が高い数字を示しています。男女別では「相談窓口機関の充実」が女性で高くなっていますが、男女とも数字の高い項目は一致しています。

セクシュアル・ハラスメントを防止するため、大学にどのような取り組みを望みますか？(男女別) [複数選択可]

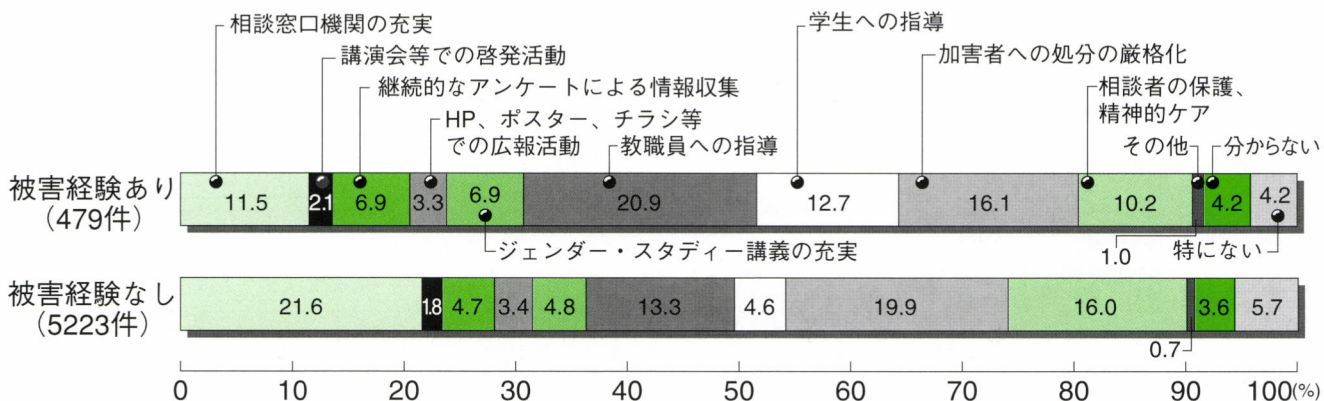


学生種類別に見てみると、社会人学生は「教職員への指導」を望む声が36.4%と他と比較して高くなっていました。

セクシュアル・ハラスメントを受けていると感じている(「ある」または「ややある」)学生は、そうでない学生と比べて大学に対し異なる要望を持っています。すなわち「相談窓口機関の充実」、「相談者の保護、精神的ケア」が低いのに対して、

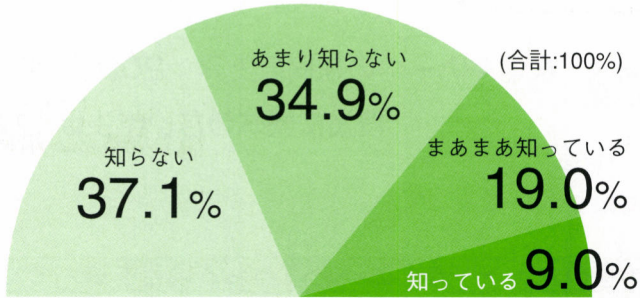
「教職員への指導」、「学生への指導」が高くなっています。実際に被害を受けている学生は、事後の対処よりも、予防措置を望んでいるものと考えられます。

セクシュアル・ハラスメントを防止するため、大学にどのような取り組みを望みますか？／大学生
活でセクシュアル・ハラスメントを受けたと感じた(感じている)ことがありますか？ [複数選択可]



本学はセクシュアル・ハラスメントに関する相談窓口である専門機関を設置していますが、これに関する認知度は「知っている」(9.0%)、「まあまあ知っている」(19.0%)とこれらを合わせても28.0%に留まりました。それでも学年別に見ると学年が上がるにつれて認知度は高まる傾向にあります。博士課程の学生は「知っている」(16.3%)、「まあまあ知っている」(31.9%)とほぼ半数の学生がセクシュアル・ハラスメントの学内専門機関について認識しているようです。

本学では、セクシュアル・ハラスメントに関する相談窓口である専門機関を設置し、対策をしています。皆さんはその専門機関や活動内容を知っていますか？

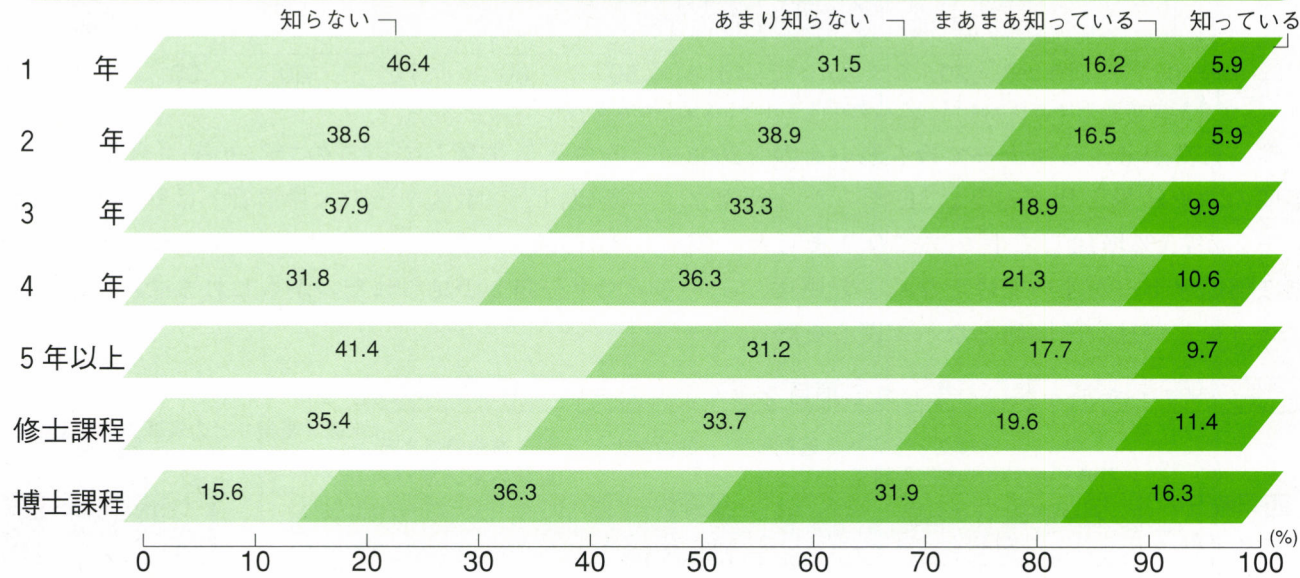


はみだし情報

セクシュアル・ハラスメントの被害を受けている学生であっても学内の相談窓口である専門機関の存在とその活動について「あまり知らない」(27.8%)、「知らない」(27.8%)となっていました。

これまでも、ホームページ開設やパンフレット全員配布、ポスター貼付など周知に努めてきましたが、今後、広報について内容や方法を含め、より一層の深い検討が必要です。

本学では、セクシュアル・ハラスメントに関する相談窓口である専門機関を設置し、対策をしています。皆さんはその専門機関や活動内容を知っていますか？ (学年別)



コラム

本学ではセクシュアル・ハラスメントを防ぎ、人権・人格の尊厳が保障される、快適で差別のないキャンパスを実現するために、「早稲田大学セクシュアル・ハラスメント・ガイドライン」を制定しています。専門の相談員を配置し、相談を受け付け、その解決に取り組むだけでなく、各種パンフレットやホームページ等での広報活動や、講演会等の催し物を通して、啓発・防止活動を実施しています。被害を受けたとき、友人からの相談を受けたとき、また本学での取り組みについて質問や

意見があるときに、気軽に相談できるシステムが整っています（相談者のプライバシーは厳格に守られています）。

■相談窓口 セクシュアル・ハラスメント 情報委員会室

【開室時間】 月～金 9:00～17:00 土 9:00～14:00
 【URL】 <http://www.waseda.ac.jp/shj/index.html>
 【E-Mail】 sh110@list.waseda.jp
 【TEL】 03 (5286) 9824
 【FAX】 03 (5286) 9825



見られています！

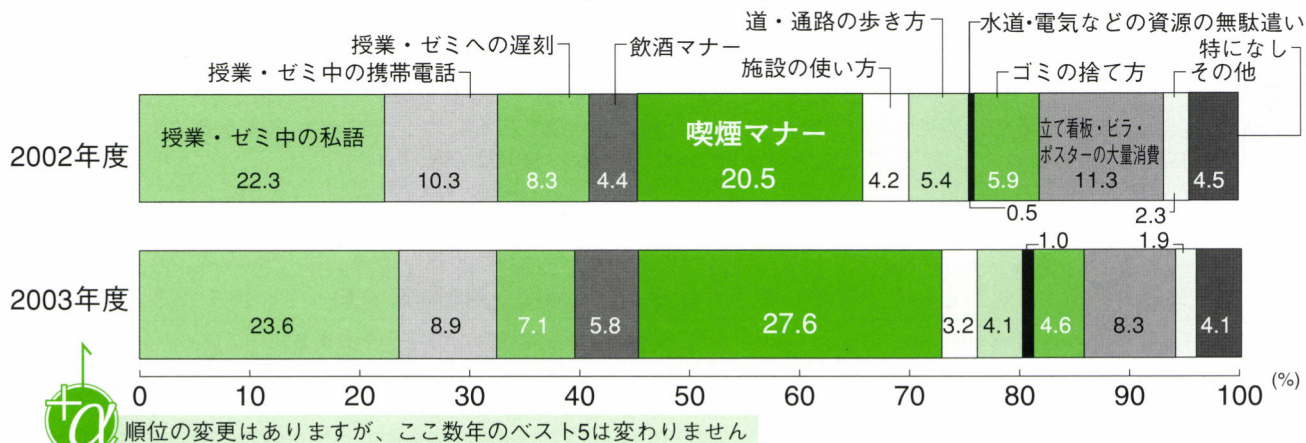
あなたの喫煙マナー

POINT

喫煙マナーへの指摘急上昇 2002年度：**20.5%** 2003年度：**27.6%**

授業に興味のない学生ほど授業のマナーへの意識が低い

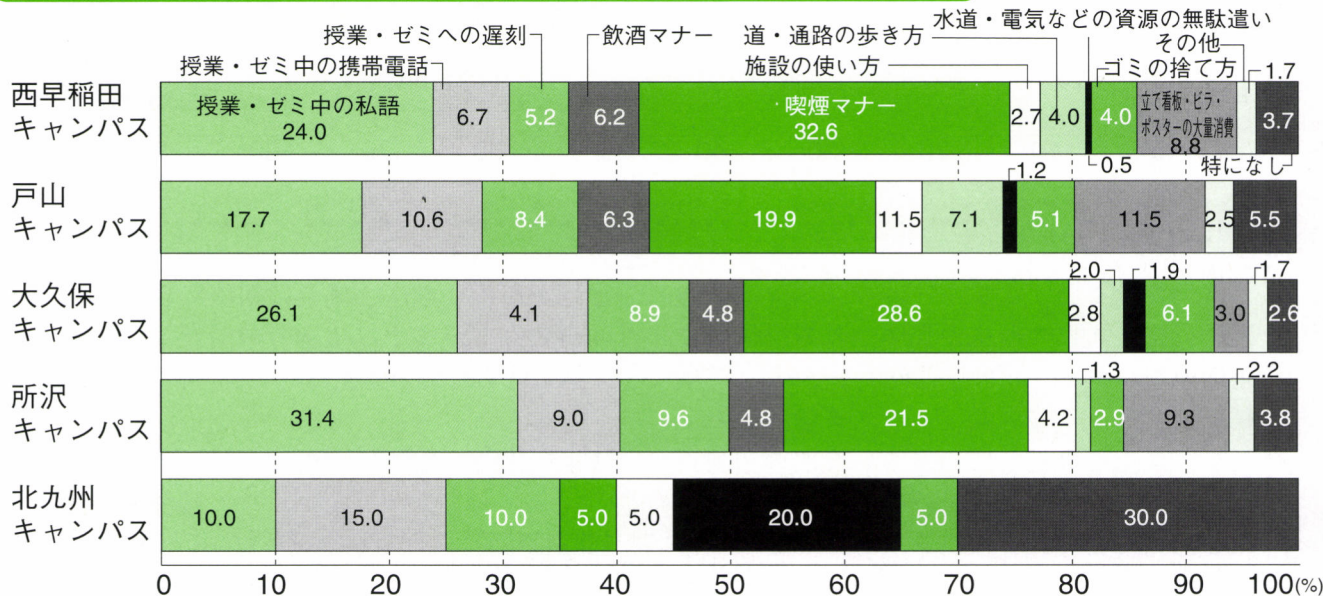
学生のマナーが最も悪いと思われる項目を選んでください（経年変化）



学生自身が考えるマナーで最も悪いものを2002年度の調査結果と比べると、2位だった「喫煙マナー」が7.1%増加してトップになりました。実際に喫煙マナーが悪いだけでなく、分煙化、歩きタバコなどが社会的問題となって関心呼んでい

ることも影響しているのでしょう。一方、「立て看板・ビラ・ポスターの大量消費」は昨年度よりも3.0%減少しており、これに関するサークル等のマナー向上が見られるのかもしれません。

学生のマナーが最も悪いと思われる項目を選んでください（キャンパス別）



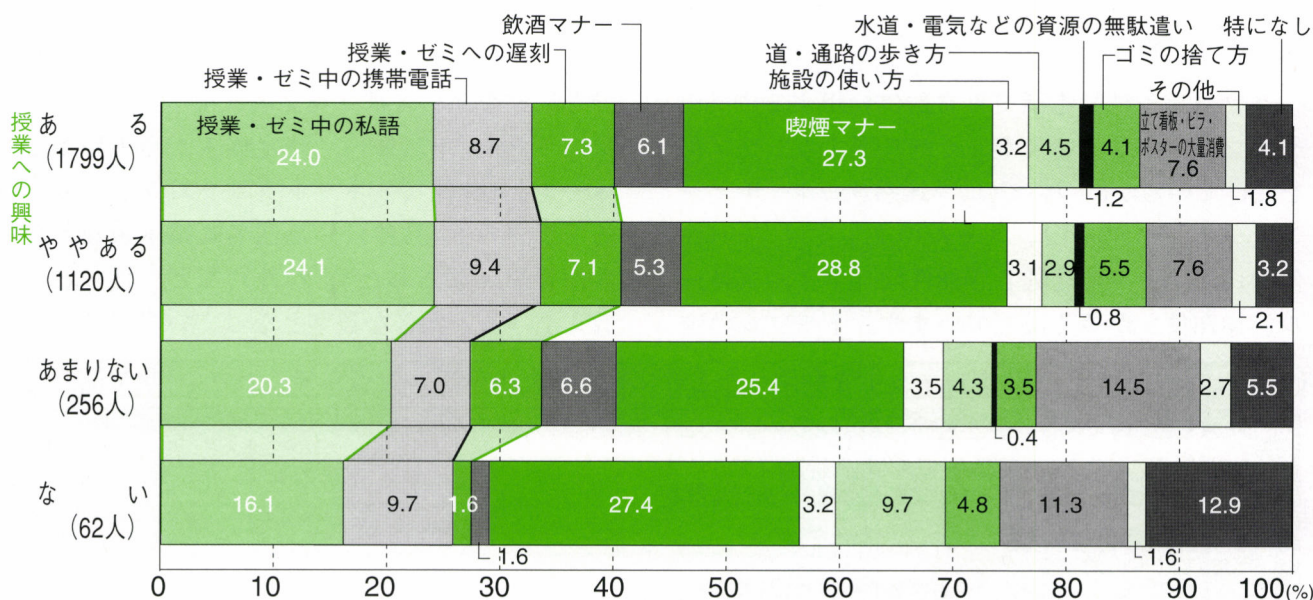
キャンパス別に見てみると、戸山キャンパスでは「喫煙マナー」は19.9%、「授業・ゼミ中の私語」も17.7%と他のキャンパスよりも際立って低くなっています。それに比べ、西早稲田キャンパスで

は「喫煙マナー」が32.6%、所沢キャンパスでは「授業・ゼミ中の私語」が31.4%と高くなっており、それぞれのキャンパスにおいて学生が悪いと考えているマナーの特徴を垣間見ることができます。

ところで、大学の授業に興味がある学生とそうでない学生との間にも、マナーの悪さについての認識が異なるようです。授業に興味の「ない」学生は、「授業・ゼミ中の私語」(16.1%)や、「授業・ゼミへの遅刻」(1.6%)をあまりマナーが悪

いと感じていませんが、逆に「特になし」が12.9%と高くなっています。もともと授業に興味がないので、授業中のマナーの悪さに気が付きにくいのかもしれません。

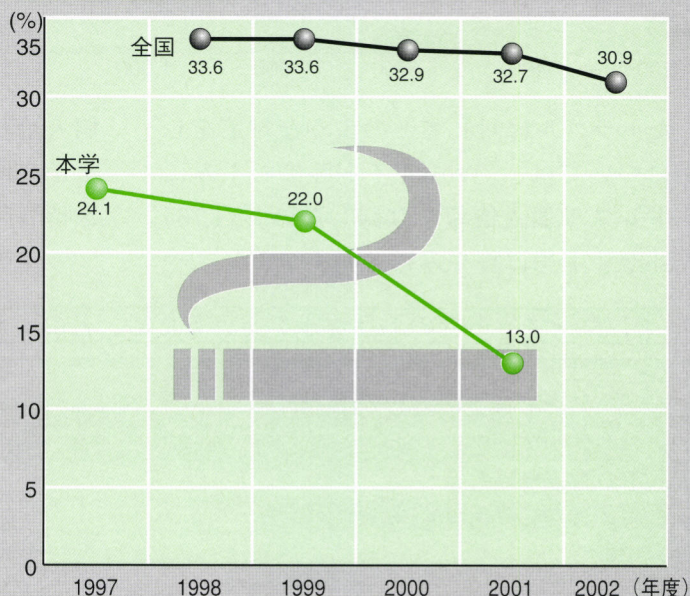
学生のマナーが最も悪いと思われる項目を選んでください／大学の授業に興味がありますか？



コラム

キャンパス内の全面禁煙を求める学生・教職員・校友・来訪者の声、本年5月1日に施行された健康増進法などを受け、本学では、学生が利用できるすべての場所が禁煙となりました。今後、学生サークルやボランティアの協力による「キャンパス禁煙キャンペーン」や、教職員による全キャンパス定期巡回などを実施し、教職員・学生が一体となり、喫煙マナーを徹底していきます。愛煙家には「吸いたい時に吸えない」厳しい時代かもしれませんが、煙草の煙(副流煙)が周りへ与える悪影響の大きさを考え、マナーを守って全学生が快適に学べる場を大学全体が一丸となって作っていかねばなりません。

喫煙者率の推移



グラフ注：2002、2003年度の調査では、喫煙の有無は質問していません。
※「全国たばこ喫煙者率調査」(日本たばこ産業株式会社調査)より。

喫煙マナーがワースト1になった理由の1つに、受動喫煙による害が広く知られてきて、非喫煙者が声を上げやすくなったとも考えられます。



便利なE-mail、インターネットも、トラブルがつきもの？

POINT

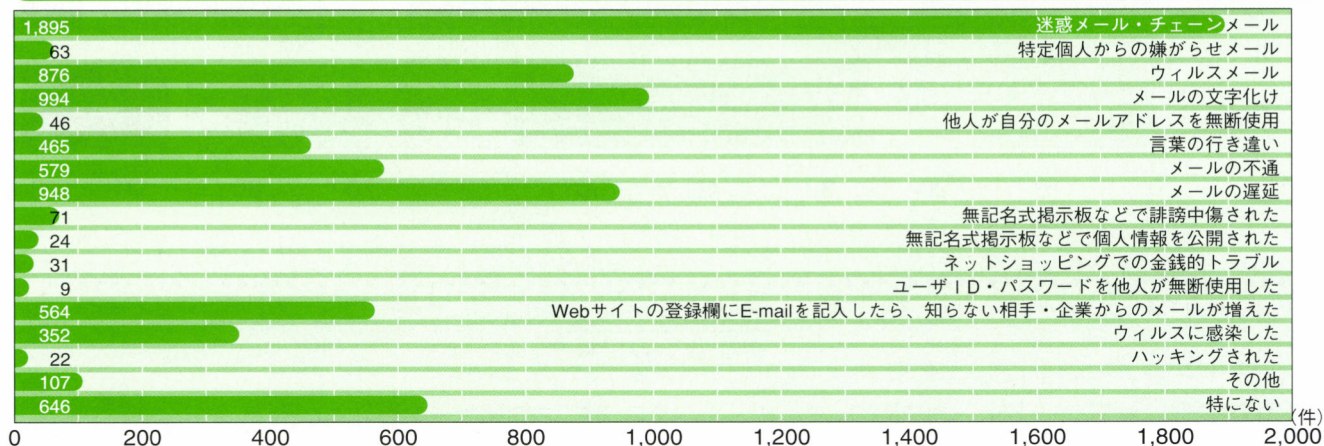
トラブルの経験あり**約7割**

トラブル経験者は、何らかの方法で自衛

パソコンや携帯電話で日常的に使用するE-mailやインターネットですが、それに関するトラブルを受けているかについては、「迷惑メール・チェーンメール」(1,895件)、メールの文字化け(994件件%)、「メールの遅延」(948件)、「ウィルスメール」(876件)が多くなっています。トラブルの中

でも深刻なケースは「無記名式掲示板などで誹謗中傷された」(71件)、「特定個人からの嫌がらせメール」(63件)、「ネットショッピングでの金銭的トラブル」(31件)、「無記名式掲示板などで個人情報公開された」(24件)など、件数として数え上げると大きな数字となっています。

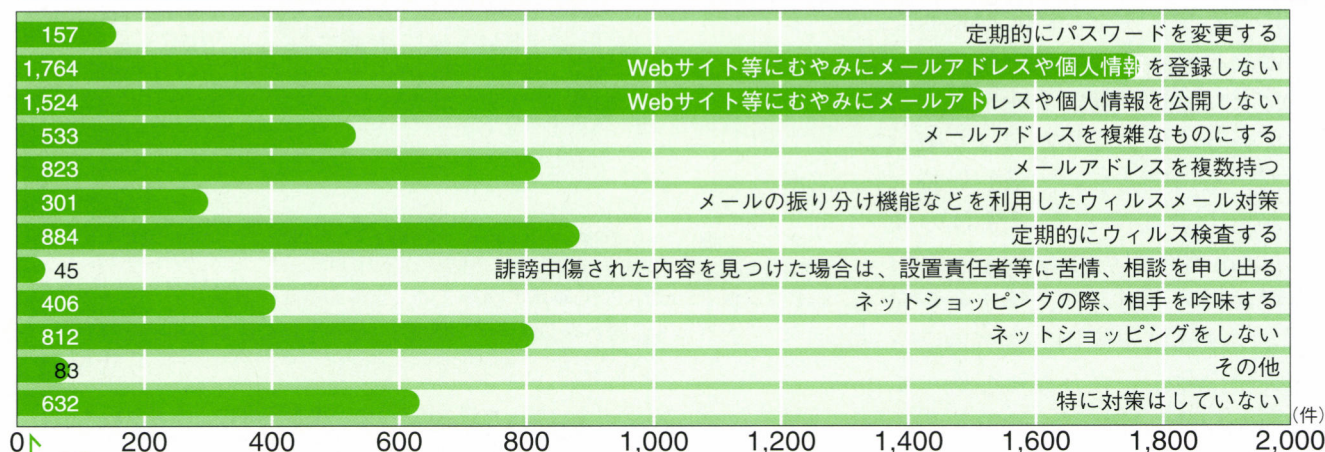
これまでにE-mail、インターネットを利用したときに経験したトラブルを選んでください[複数選択可]



そうしたトラブルに対してどのような対策をしているかについては、「Webサイト等にむやみにメールアドレスや個人情報を登録しない」(1,764件)、「Webサイト等にむやみにメールアドレスや

個人情報を公開しない」(1,524件)、「定期的にウイルス検査する」(884件)、「メールアドレスを複数持つ」(823件)が多くなっています。

E-mail、インターネットでのトラブルを避けるため、どのような対策をしていますか？[複数選択可]



男女、学年、文系理系の別なく同じ傾向となっていました。また、こういったトラブルにみまわれたかという体験にも関係なく上記の対策が多く採られているようです。